

# 旅するがっこう 旅するヒミツ基地

## 冬の北海道 馬と羊と森づくり

### 『鹿』と『雪』と『森』

キーワードを挙げるとすれば、今回はきっとこの3つ。

森の中で『遊ぶ・働く・食べる・くつろぐ・寝る・そして起きる』、つまり、「暮らし」をする。レジャー型の旅行ではない、プログラムがあらかじめ設定された自然体験活動とも少し違う（もちろん、そのどれもが優れているという話ではなく、それぞれに良さがある）。

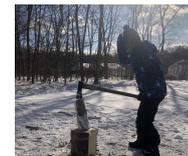
私たちの「冬の北海道 馬と羊と森づくり」は、経験豊かな現地の自然学校のスタッフと「森での暮らし」をする。子どもたちの発見や遊びを心底面白がって、そっと発展的環境をセッティングしてくれる。そして何より、一緒に没入してくれる仲間と一緒にいる！

紙面の右下に、＜主な活動内容＞を書いてみたけれど、これをあらかじめスケジュールに落とし込んで”全員でプログラムとして消化”していったとしたら、とんでもなく忙しく、とんでもなく大変だったと思う。けれど、これだけのことをやり切った（実際は、振り返ったらこれだけのことができてしまった！が実感。）今回の旅は、ここ数年の北海道の旅の中で、最も『ゆったりとした時間』が流れていて、子どもも大人も、みんなが好きなことを好きなようにできた実感が強い。

あっちでは鹿の解体（1頭の鹿の命が様々な活動につながる様子は別途レポートに記録！）、こっちでは夕食の準備。寄ってくる子もいるし、すでにかまくら作りに夢中な子もいる。ある日は、水やお湯を運び（よりによって管理棟のドアの目の前に！）、ブラシで磨いてスケートリンクづくり。大きい子がせっせと作り込むことに夢中だった場所は、少し時間が経つと、もう少し小さい子たちの遊び場に。もちろん異年齢が混ざり合って料理をしたり、カードゲームで盛り上がったりもする。動物のお世話に夢中の子もいる。ポロ取りや餌やり。今年は念願のシマエナガを見れた子もいた！イベントブースのように、あちこちで活動が並行し、好きな所に好きなだけいいし、自分でブースを作ってみんなを呼んでもいい。つまり、現地スタッフの言葉を拝借すると、こういうことになる。

「ここにあるのは、”誰もが同じことを体験できるという平等”じゃなくて、”誰もが好きなことに好きなだけ夢中になれる”という平等なんだよね」

1泊キャンプだったら我慢出来て周りに合わせられることでも、3日を過ぎると勝手に違ってくる、ポロも出る。そんな中で自分を知り、相手とぶつかったり衝突を回避したり、それを肌感覚で覚える。一緒に手仕事をする中で、今の本当の気持ち、過去の体験、未来への不安や希望、いろんなことがホロリと漏れてくる。長期泊かつ、三食自炊で暮らしを共にするからこその関係性が、子どもも大人も関係なく、人間としての”根っこ”をたくしてくれらる感じる。



豪雪地帯の沼田は、全員が未体験の雪の量！サウナをやりたくても、まずは雪を掘って掘って、サウナテントを置く場所の雪かきをするところから始まる。（そして、とんでもなく素敵な雪まちサウナが完成！）

沼田に到着した日は、子どもたちが別々に「MYかまくら掘り」に夢中だったのが印象的。自分で好きなようにやるだけやってみたい！そうやって「自分」が満たされたあとに、「協力」とか「一緒にもっとすごいものを作りたい」という思いが出てくるのかもしれない。滞在の終盤に、みんなで協力して作った「イグルー」は圧巻の迫力！

まっ白なフィールドに、自分たちで足跡をつけ、滑り跡をつけながら「ソリ遊びのフィールド」をつくりだしていくという体験も、初めての感覚だった。

**見よう見まねで手を動かすうちに、体が動き、いつのまにか心も動いて「もっとやりたい」「次はこうしたい」が自然に湧き上がる。**

理屈抜きでこの体感を繰り返すことが「豊か」になるとか、「個性を育む」とか、そういうことにつながると信じている。何より「次」に思いを馳せられることが、**生きる原動力そのものだ！**また一緒に旅をしよう！！

＜主な活動内容＞

DAY1～3 イコロの森で森づくり／イコロの森泊

鹿の解体、雪遊び、動物のお世話、料理、クラフト、ネイチャーサウナ、乗馬体験、馬搬見学、馬ぞり体験、キハダの皮むき、薪割り など

DAY4～7～12 沼田自然学校で雪遊び／沼田自然学校泊

かまくらづくり、雪おろし、サウナづくり、イグルーづくり、ネイチャーサウナ、雪探検、ソリ、スキー、料理、年越しそば打ち、おせちづくり、羊毛クラフト、木工クラフト など